

自治会（町会・地区・区）長 各位

春日部市自治会連合会  
会長 時田 美野吉

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた自治会行事等の  
対応について（第 5 回通知）

日頃から地域コミュニティ活性化の推進にご協力をいただき感謝申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策にご理解とご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

先般、政府対策本部により 5 月 25 日付で、緊急事態宣言が解除されました。これを受け、市では「緊急事態措置解除後のイベント及び公共施設等の再開に向けた対応方針」を定め、今後は、この方針に沿って公共施設やイベントを段階的に再開していくこととなります。

自治会の各種活動や各自治会で所有する集会所の利用においても、市の対応方針や、国の「イベント開催制限の段階的緩和の目安」などを参考として、感染症対策が十分に徹底できるかを考慮したうえで判断いただき、ご対応ください。

なお、春日部市の公共施設は 6 月 1 日から利用人数を定員の 50%以下としたうえで、感染拡大防止を図りながら徐々に貸館を行う予定です。また、感染者発生に備えてすぐに連絡できるよう利用者の把握に努める予定です。

自粛要請は緩和されましたが、新型コロナウイルスについては長期的に感染拡大防止の対策を行っていかねばなりません。「3密」を避け、「新しい生活様式」に準じた感染症対策を徹底し、不参加希望者への配慮や、極力最小限の人数で開催するなど、感染症予防に引き続きご留意くださいますようお願いいたします。

※ 市の「緊急事態措置解除後のイベント及び公共施設等の再開に向けた対応方針」および国の「イベント開催制限の段階的緩和の目安」今後の感染拡大状況により更新される場合がありますので、市または春日部市自治会連合会ホームページ等でご確認ください。

春日部市自治会連合会ホームページ <http://kasukabe-jichiren.net/>  
春日部市ホームページ <https://www.city.kasukabe.lg.jp/>

担 当：春日部市自治会連合会事務局（市役所市民参加推進課内）

TEL：048-736-1111 内線 2875

FAX：048-734-5516

E m a i l：sanka@city.kasukabe.lg.jp

## 緊急事態措置解除後のイベント及び公共施設等の 再開に向けた対応方針

令和2年5月26日  
新型コロナウイルス対策本部会議

本方針は、市主催のイベント開催時及び市の公共施設等における、新型コロナウイルス感染予防対策として実施すべき事項を整理し、緊急事態措置解除後のイベント及び公共施設等の再開に向けた対応方針とするものである。

現在休止しているイベント及び公共施設については、次に示す方針のもと、国及び埼玉県の動向を踏まえ、6月1日（月）より順次再開するものとする。

ただし、イベントや施設の状態により感染防止対策をとれない場合は休止を継続し、当面の間再開を見合わせるものとする。

### 1 イベント及び公共施設等の再開のための基本的な考え方

イベント主催者・施設管理者は、施設の規模やイベント等の形態を十分に踏まえ、会場内・施設内において、職員や出入りする民間事業者及びイベント来場者・施設来館者への新型コロナウイルスへの感染を予防するため、最大限の対策を講ずるものとする。

#### (1) 感染の予防

次に示す3つの条件（いわゆる「三密」）のある場を避けるなど、感染の回避を徹底する。

- ①密閉空間（換気の悪い密閉空間であること）
- ②密集場所（多くの人々が密集していること）
- ③密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発話が行われる）

#### (2) 感染拡大の防止

イベント参加者・公共施設利用者の氏名・住所等の把握に努める。

（参加者・利用者の中で感染者又は濃厚接触者が発生した場合、保健所に感染者又は濃厚接触者に関する情報提供を行う。）

### 2 市主催イベント等の再開方針

国の示すイベント開催制限の段階的緩和の対処方針に準じて、再開するものとする。

市主催・共催以外のイベント等については、極力、この方針に基づいた対応への協力をお願いする。

### 3 公共施設の再開方針

次に示す感染防止対策を徹底するとともに、近隣市町における再開時期を考慮したうえで順次再開するものとする。

#### (1) 感染防止対策（基本事項）

- ①三密を防ぐために・・・
  - 毎時の換気
  - 一定の数以上の入場制限（屋外での待機等）

- 受付や更衣室での密集防止
- 社会的距離の確保  
(受付等の際、人との間隔は、できるだけ2 m空ける)

②感染しない、感染させないために・・・

- 発熱（37.5 度以上又は平熱より 1 度以上高い）や咳などの風邪症状がある方、体調不良（倦怠感、息苦しい等）の方の制限
- 手洗いや手指の消毒の徹底、手の触れる場所の消毒  
(入口等への消毒設備の設置)
- マスクの着用
- 共用する物品などの最少化
- 鼻水・唾液のついたごみは、ビニール袋に入れて密閉
- 対面場所の遮蔽
- 消毒の徹底
- 共用タオルの廃止、ハンドドライヤーの使用中止

(2) 感染防止対策（個別事項）

個別の施設における感染防止対策は、各種ガイドライン等を参考に施設所管課において定める。

## イベント開催制限の段階的緩和の目安（その1）

- 「新しい生活様式」に基づく行動。手指消毒やマスク着用、発熱等の症状がある者は外出等を避けるなど、基本的な感染防止策の徹底・継続。イベント主催者や出演者は「業種別ガイドライン」等に基づく行動、参加者の連絡先把握、接触確認アプリの周知、イベント前後の感染対策（行動管理含む）の呼びかけ。
- 感染拡大の兆候やイベント等でのクラスターの発生があった場合、イベントの無観客化や延期、中止等も含めて、国と連携しながら、都道府県知事が速やかに協力を要請。その際、専門家によるクラスターの発生原因やそれへの有効な対策等に関する分析を出来る限り活用（業種別ガイドラインの改定にも活用）。緊急事態宣言が出た場合、対策を強化。
- 今後、感染状況等に変化がみられる場合、段階的解除の目安の変更や必要な対策等を通知。

### <基本的な考え方>

時期		収容率	人数上限
【移行期間】 ステップ① 5月25日～	屋内	50%以内	100人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	200人
ステップ② 6月19日～ *ステップ①から約3週間後	屋内	50%以内	1000人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	1000人
ステップ③ 7月10日～ *ステップ②から約3週間後	屋内	50%以内	5000人
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	5000人
【移行期間後】 感染状況を見つ、 8月1日を目途 *ステップ③から約3週間後	屋内	50%以内	上限なし
	屋外	十分な間隔 *できれば2m	上限なし

(注) 収容率と人数上限でどちらか小さい方を限度（両方の条件を満たす必要）。

## イベント開催制限の段階的緩和の目安（その2）

○ イベント主催者は、特に、全国的な移動を伴うものには格段の注意。 イベント参加者は、自身が感染対策を徹底していても、感染リスクはあることに留意。 また、発熱等の症状がある者はイベントに参加しない（無症状で感染させる可能性も）。

### ＜具体的な当てはめ＞

時期	コンサート等	展示会等	プロスポーツ等 <small>(全国的移動を伴うもの)</small>	お祭り・野外フェス等	
				全国的・広域的	地域の行事
<b>【移行期間】</b> ステップ① 5月25日～	○ <b>【100人又は50%<sup>(注)</sup></b> <b>（屋外200人）】</b> *密閉空間で大声を発するもの、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応、管楽器にも注意	○ <b>【100人又は50%】</b> *入場制限等により、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応	×		△ <b>【100人又は50% （屋外200人）】</b> *特定の地域からの来場を見込み、人数を管理できるものは可
ステップ② 6月19日～ *ステップ①から約3週間後	○ <b>【1000人又は50%】</b> *密閉空間で大声を発するもの、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応、管楽器にも注意	○ <b>【1000人又は50%】</b> *入場制限等により、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応	○ <b>【無観客】</b> (ネット中継等) *無観客でも感染対策徹底、主催者による試合中・前後における選手等の行動管理	×	
ステップ③ 7月10日～ *ステップ②から約3週間後	○ <b>【5000人又は50%】</b> *密閉空間で大声を発するもの等は、厳格なガイドラインによる対応 *GoToキャンペーンによる支援(7月下旬～)	○ <b>【5000人又は50%】</b> *入場制限等により、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応 *GoToキャンペーンによる支援(7月下旬～)	○ <b>【5000人又は50%】</b> *感染対策徹底、主催者による試合中・前後における選手・観客等の行動管理 *GoToキャンペーンによる支援(7月下旬～)		○ *特定の地域からの来場を見込み、人数を管理できるものは可
<b>【移行期間後】</b> 感染状況を見つつ、 8月1日 を目途 *ステップ③から約3週間後	○ <b>【50%】</b> *密閉空間で大声を発するもの等は、厳格なガイドラインによる対応 *GoToキャンペーンによる支援	○ <b>【50%】</b> *入場制限等により、人との間隔を十分確保できないもの等は慎重な対応 *GoToキャンペーンによる支援	○ <b>【50%】</b> *感染対策徹底、主催者による試合中・前後における選手・観客等の行動管理 *GoToキャンペーンによる支援	△ <b>【十分な間隔】</b> (できれば2m) *感染状況を踏まえて、判断。	

(注)どちらか小さい方を限度。他の場合も同様。

新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をおねがいします

# 3つの密を 避けるための手引き!

- 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、咳エチケット、手指衛生等に加え、「**3つの密(密閉・密集・密接)**」を避けてください。
- 3つの密が重ならない場合でも、リスクを低減するため、できる限り「**ゼロ密**」を目指しましょう。
- 屋外でも、密集・密接には、要注意。人混みに近づいたり、大きな声で話しかけることなどは避けましょう。

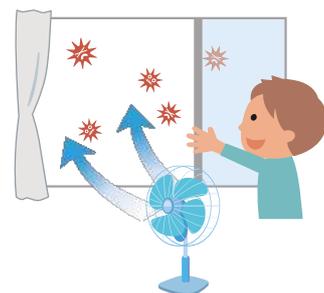


# ①「密閉」空間にしないよう、こまめな換気を!

「部屋が広ければ大丈夫」、「狭い部屋は危険」というものではありません。カギは「換気の程度」です。WHOも、空気感染を起こす「結核・はしかの拡散」と「換気回数の少なさ」の関連を認めています。

## 窓がある場合

- ・ 風の流れることができるよう、**2方向の窓を、1回、数分間程度、全開**にしましょう。換気回数は**毎時2回以上**確保しましょう。
- ・ 窓が1つしかない場合でも、入口のドアを開ければ、窓とドアの間に空気が流れます。扇風機や換気扇を併用したり工夫すれば、換気の効果はさらに上がります。



## 機械換気がある場合

- ・ 窓がない施設でも、建物の施設管理者は、法令により感染症を防止するために合理的な換気量を保つような維持管理に努めるよう定められています。  
注)ビル管理法により、不特定多数の方が利用する施設では、空気環境の調整により、一人当たり換気量(毎時約30m<sup>3</sup>)を確保するよう努めなければなりません。
- ・ したがって、地下や窓のない高所の施設であっても、換気設備(業務用エアコン等)によって換気されていることが通常のため、過剰に心配することはありません。
- ・ しかし油断は禁物です。換気量をさらに増やすことは予防に有効です。冷暖房効率は悪くなりますが、窓やドアを開けたり、換気設備の外気取入れ量を増やしましょう。また、一部屋当たりの人数を減らしましょう。
- ・ 通常の家用的エアコンは、空気を循環させるだけで、換気を行っていません。別途、換気を確保してください。また、一般的な空気清浄機は、通過する空気量が換気量に比べて少ないことから、新型コロナウイルス対策への効果は不明です。

## 乗り物の場合

- ・ 乗用車やトラックなどのエアコンでは、「内気循環モード」ではなく「**外気モード**」にしましょう。
- ・ 電車やバス等の公共交通機関でも、**窓開け**に協力しましょう。



## ②「密集」しないよう、人と人の距離を取りましょう!

- 他の人とは互いに手を伸ばして届かない十分な距離（**2メートル以上**）を取りましょう。



- スーパーのレジなどで列に並んでいるとき、前の人に近づきすぎないように注意しましょう。

- 飲食店の座席では、**隣の人と一つ飛ばしに座る**と、距離を確保しやすいです。

また、真向かいに座らず、**互い違いに座る**のも有効です。

店舗の責任者は、椅子の数や配置を工夫して、十分な距離を保ちましょう。



- エレベーターでは、多くの人が密集しがちです。混みあっているときは、一本遅らせましょう。また、健康のためにも、階の上下には階段の利用に努めましょう。



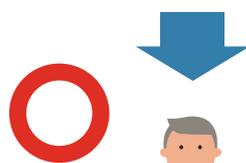
- 職場は、工夫してテレワークへ転換しましょう。導入に向けた支援策もあります。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html#hatarakukata](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html#hatarakukata)



### ③「密接」した会話や発声は、避けましょう!

- 密接した会話や発声は、ウイルスを含んだ飛沫を飛び散らせがちです。WHOは「5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛まつ(約3,000個)が飛ぶ」と報告しています。
- 対面での会議や面談が避けられない場合には、**十分な距離を保ち**、マスクを着用しましょう。
- エレベーターや電車の中などでは、距離が近づかざるを得ない場合があります。**会話や、携帯電話による通話を慎みましょう。**
- 飲食店では、マスクを外す時間が長くなりがちです。外している間に飛沫が飛ぶことを抑えるには、例えば多人数での会食のように、大声にならざるを得ない催しは慎みましょう。家族以外の多人数での会食などは避けましょう。  
注)「多人数」とは10人以上を想定していますが、なるべく少ない方が良いです。
- スポーツジムなど、多人数かつ室内で呼気が激しくなるような運動を行うことは避けましょう。
- 喫煙も、近くにいる人との「密」に、ことのほか注意して下さい。



# 「新しい生活様式」の実践例

## (1) 一人ひとりの基本的感染対策

### 感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m（最低1m）** 空ける。
- 遊びにいくなら**屋内より屋外**を選ぶ。
- 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
- 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、**症状がなくてもマスク**を着用
- 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う（手指消毒薬の使用も可）

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

### 移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

## (2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒**       咳エチケットの徹底       こまめに換気
- 身体的距離の確保       「**3密**」の回避（**密集、密接、密閉**）
- 毎朝で体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



## (3) 日常生活の各場面別の生活様式

### 買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

### 公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

### 娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

### 食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

### 冠婚葬祭などの親族行事

- 多人数での会食は避けて
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

## (4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務       時差通勤でゆったりと       オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン       名刺交換はオンライン       対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成